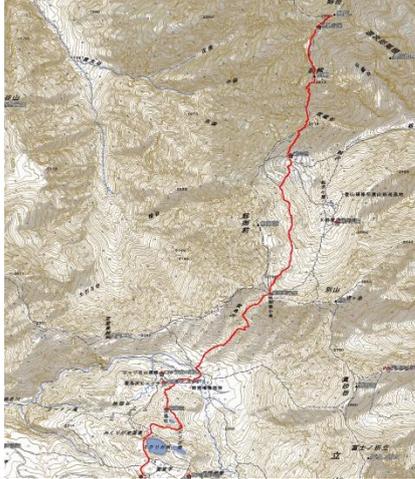


山行報告書

京都田辺山友会

報告者 小泉

山名	劔岳	山行名	例会
ルート	室堂～劔山荘～劔岳～雷鳥沢ヒュッテ～室堂		
山行日	2025年7月25日(金)～27日(日)	天候	晴のち曇り、一時雨
参加者	リーダー:小泉 サブリーダー:豊田 男性:森本 女性:高橋、山本 合計:5名		

ルート概略図 	コースタイム			
	7月25日(金)			
	地名	時:分	平蔵の頭	着 6:30
				発 6:46
	室堂登山口		劔岳	着 7:22
		発 11:43		発 8:12
	劔御前小屋	着 12:19	劔山荘	着 11:09
		発 12:34		発 12:11
	劔山荘	着 16:06	雷鳥沢ヒュッテ	着 15:43
7月26日(土)		7月27日(日)		
劔山荘		雷鳥沢ヒュッテ		
	発 4:07		発 7:09	
前劔	着 5:14	室堂	着 8:04	
	発 5:52			

山行報告

**1日目 4時間 28分 5.4km 登り 572m 下り 530m**

京田辺出発時の室堂の天気は12時から雨予報。初日から雨かと落胆するが、室堂に着いてみると降りそうな感じが全くなく劔山荘まで雨に降られず到着。途中みくりが池では雷鳥の歓迎をうけ、雪溪のトラバースも7カ所あって今年は雪が多かったんだと改めて思った。

**2日目 11時間 49分 7.8km 登り 1064m 下り 1227m**

本日も12時から雨予報。5時出発の予定を4時に変更して出発。順調に一服劔、前劔と進み、これからが本番のクサリ場と岩場の連続を皆さん軽々登って来られる。もう少し躊躇があるかと思っていましたが皆さん凄いわ。私は登りの最後のクサリ場「かのにのたてばい」を見て、え～しょぼと思った。事前のイメージトレーニングで真下が数百メートル切り立った岩場で40m位登ると想像していたのでちょっと肩透かしでした。7:20に頂上に到着。天気も良く陰しさの先にある絶景、標高2999mから見る360°の眺めは最高でした。しばし休憩して8:12下山開始。かのにのヨコバイからクサリ場が始まるが、ここでも事前の情報では足場が見えないと思っていたが普通に見えた。下山で山側は岩で登りの方の落石注意看板、谷川は切り立って下まで見えない所を通過する方が運任せで怖かった。そんな中、皆さんも全く問題なく下山。最後のガレ場でMさんが転倒し突指されシブプする。劔山荘に11:09着。昼食でのんびりとくつろぐと、ちょっとやれやれ感から雷鳥沢ヒュッテまで、かなり遠く感じる。ゆっくりペースで途中夕立にも合い靴はずぶ濡れになるが、15:43雷鳥沢ヒュッテ到着

**3日目 55分 1.81km 登り 179m 下り 60m**

7:09 雷鳥沢ヒュッテを出発。スタートの上りの階段が疲れた身体にはきつい。

8:04に室堂到着

皆さんご苦労様でした。もっと難儀するかと思ってましたが皆さんの頑張りで無事下山できました。天気にも恵まれ最高でした。

ヒヤリハット: あり 転倒による突指(別紙参照)

## 《感想文》

### 高橋

行く前は不安と緊張でいっぱいでしたが、「どうしても登ってみたい」という気持ちが勝り、思い切って挑戦することにしました。 劔岳は「岩と鎖の山」と言われるだけあり、鎖場がいくつも連続する厳しいルートでした。 慎重に足場を確かめながら緊張感のある場面も多くありましたが、岩稜好きの私は楽しかったです。天候にも恵まれ、山頂からの景色は本当に素晴らしく、遠くまで続く山並みや青空、360度広がる雄大な風景に、心が洗われる思いでした。特に下山中の事故が多いとリーダーから前もって教えていただいたので、心の中で「最後まで最後まで」と言い聞かせながら下山できました。この挑戦を無事に終えることができたのは、メンバーの方々の支えがあったからこそです。皆さま、ありがとうございました。

### 豊田

岩と雪の殿堂、憧れの劔岳の2泊3日の挑戦。厳しい岩稜帯と息をのむような絶景の連続で、これまでの登山とはまた違った体験ができました。天候に恵まれ、山頂に立った時の達成感と360度パノラマは忘れられない感動です。危険な鎖場やハシゴの連続で気が抜けませんでしたが、困難を乗り越え心身共に鍛えられると共に自信につながりました。ただ、登頂後のカニの横ばいの核心部では、横ばいした先に足場が見つけれず、下を見た時にザックリと切れ落ちているのを目視したときは変な汗が出ました。幸い、背後に赤いペンキの付着した足場を見つけて一安心。また、劔岳での女性陣の活躍は素晴らしかったです。小泉さん、この勢いで来年は大キレット？ジャンダルム？に挑戦しますか？

### 森本

室堂に到着すると、2023年度夏山の懐かしい立山三山が出迎えてくれた。雷鳥沢キャンプ場から劔御前小屋まではしんどい登りが続く。今年は残雪多く劔御前小屋から宿泊の劔山荘までは7つの雪渓を越えていった。劔岳からの源次郎尾根と別山からの稜線の間に鹿島槍ヶ岳がくっきり見える。翌朝4時から劔岳にアタック。一服劔、前劔を越え核心部へ。カニのタテバイは上を向いて登っていくので怖くはないが、カニのヨコバイは足元だけを見るようにして通過した。日本三大雪渓劔沢雪渓を歩く登山者を横目に、1時間雨に降られ、無事雷鳥沢ヒュッテに下山した。100名山80座目劔岳とメンバーに感謝！

### 山本

一般的に「難所だらけで怖い」と言われる劔岳。今回、無事に登頂することができて第一声『とにかく楽しかった！！』往復14か所の鎖場、こちらからあちらへ渡る幅狭の橋脚、下りで足元が見えにくい直立の梯子などありましたが、高所が好きだしアスレチック的な動きも好き、ヤンチャな性分も加味されてか、どのアタックも難所を好む私にはとにかく楽しかったです。鎖場ではなるべく鎖を掴まず、自分で掴みやすい足掛けしやすい岩を見つける、そういうのも楽しくて。とは言え、室堂から劔山荘間の往路はひたすら上り歩行に雪渓横断、距離も含めて体力的にしんどかった。劔山荘、前劔から望む劔岳は本当に雄大でそこに近づくにつれ「かかってこいや～」と言わんばかりの難所続き。それらを乗り越えて山頂に到着した時の感動はひとしおでした。遠くにほんの少し頭だけ見える槍ヶ岳。「今度はあそこやなあ」なんて思いながら山頂からの景色を楽しみました。

劔岳から下山後、雷鳥平までの移動はアタックザックと違い重量増に大雨。ほとんど半ベソ状態で歩きました。それでも、雷鳥沢ヒュッテに着いてから、翌朝の帰路に至るまで、何度「楽しかったなあ。チャレンジしてよかったなあ」と言葉にしたことか笑。夕飯時、達成感が加味された生ビールの美味しいこと！！

2年前の夏山登山、室堂近くの地獄谷から劔岳を見たとき、そのカッコよさに思わず

「いつか登りたい！」と声に出してしまいました。立山三山をやっとこさ縦走したくらいで、ほとんど初心者の私が大それたことを口走ったのに「山本さん、行けるよ！頑張ったらいい。行ける行ける！！」と鼓舞してくださった先輩がいらっやいました。

昨年、急逝されたH先輩です。「ほんまですか～」なんて言いながらも、内心その言葉が嬉しくて本

気で目指そうと思いました。昨夏、槍ヶ岳へのチャレンジをキャンセルした私が、いきなり剣?! 少し躊躇しましたが、あの時の言葉が私の背中を押してくれたように思います。今回叶えられたこと、山頂でH先輩にご報告させていただきました。

H先輩、一緒に頑張ろうと言ってくれた同期のCL、この例会に声を上げてくれたSL、山に詳しい心強いM先輩、同姓参加で安心させてくれたTさん、私の山歴に奇跡を与えてくださり本当にありがとうございました。また、お供できるよう精進いたします笑

